

アフリカの音楽と洗練

二〇世紀以降のポピュラー音楽の屋台骨を支えてきたのはアフリカの音楽だというと、意外な顔をされることが多い。アフリカの音楽と言われても、きちんと聞いたことがない、知らないという人がほとんどだからだ。しかしわれわれにもおなじみの洋楽のジャズやR&Bやサルサやサンバは、いずれも新大陸やカリブ海でヨーロッパとアフリカの音楽が出会って生まれたものだ。J・ポツプの大半もそんな洋楽の影響を受けている。間接的だが、われわれはアフリカの音楽に由来するリズムの感覚をグルーブという言葉で説明し、あたりまえのように楽しんでいるのである。

もつと直接的な例もある。たとえばユーチューブでドン・オマール・フィーチャリング・DJルセンゾの「ダンサ・クドゥロ」という曲を探してみてもほしい。過去三年間で約四億六千万回という驚異的な再生数のこの曲には、アンゴラのダンス・ミュージック「クドゥロ」のリズムが使われている。

世界的に最も有名なアフリカの曲は、一九六一年にアメリカのトークンズがヒットさせた「ライオンは寝ている」だろう。ミュージカル『ライオンキング』でもおなじみのこの曲の原曲は一九三九年発表の南アフリカのポップスで「ムブーベ」と

北中 正和

プロフィール
1946年奈良市生まれ。音楽評論家。東京音楽大学講師。新聞、雑誌、インターネット、放送などで世界各地の音楽を紹介している。著書『ほんのうた』『ギターは日本の音楽をどう変えたか』(以上、平凡社)、『ロック』(講談社)、『毎日ワールド・ミュージック』(晶文社)、『編・著書・事典 世界音楽の本』(岩波書店)、『世界は音楽でできている』(音楽出版社)、『てるりん自伝』(みすず書房)、『細野晴臣 エンドレス・ストーリー』(平凡社)などを多数。

いう。アメリカでは「ウイモウエ」というタイトルでも知られている。民謡扱いられたこの曲の作者がソロモン・リンダであることがアメリカの法廷で認められたのは二世紀に入ってからというひどい話もあるが、ともあれ、南アフリカ特有のコーラスの音楽がいまではこの曲にちなんで「ムブーベ」と呼ばれて親しまれている。

今年のフジ・ロック・フェスティヴァルにマリ共和国のバセク・クヤーテ&ンゴニ・バというグループが出演した。アメリカに渡ってバンジョーの元になったンゴニという弦楽器を大小組み合わせて彼らは素晴らしいポップスを作り出している。ところが彼らの音楽を聞いて、素材で伝統的なアフリカの民謡は素晴らしいと思う人もいらい。

たしかに彼らの音楽には西洋の音楽のような和声やメロディの複雑さはないし、楽器もちがう。しかしリズムの組み合わせは西洋の音楽よりはるかに複雑で、そこには高度な文化が感じられる。従来ソロで弾かれていた伝統楽器を合奏するのも現代的でポップな行為だ。ひとつに現代化や洗練と言っても、その過程や方法はひとつではない。アフリカ音楽を楽しみながらぼくはそんなことも学んだ気がする。

月刊
みんなく
10月号日次

- | | |
|--|--|
| <p>1 エッセイ 千字文
アフリカの音楽と洗練
北中 正和</p> <p>2 特集
武器をアートに</p> <p>2 「武器をアートに」展によせて 吉田 憲司</p> <p>4 「武器の玉座」から「いのちの木」へ
クリストファー・スプリング</p> <p>5 エコ&ピース・プロジェクト
——日本からモザンビークの平和構築を支える 竹内 よし子</p> <p>7 アートのちから 高橋 雅子</p> <p>8 カンボジアの社会復興と伝統芸能 福岡 正太</p> <p>9 日本版武器よさらば 木下 直之</p> <p>10 似たモノさがし
武器の世界——お命頂戴つかまつる
丹羽 典生</p> <p>12 みんなく Information</p> | <p>14 地球ミュージアム紀行
大韓民国歴史博物館
朝倉 敏夫</p> <p>16 多文化をあきなう
「買ってもらう」から「売れる」フェアトレードへ
高津 玉枝</p> <p>18 フィールドで考える
太陽系外惑星の観測——ハワイ、マウナケア山
眞山 聡</p> <p>20 人間学のキーワード
イスラーム復興
藤本 透子</p> <p>21 異聞逸聞
「野球大国」ドミニカの秘密
窪田 暁</p> <p>22 制服の世界、世界の制服
ハノイの街の秩序をつくる「色」
寺戸 宏嗣</p> <p>24 次号予告・編集後記</p> |
|--|--|